

【目的】 接着芯地の接着条件には、温度、圧力、時間、スチーム、プレス後の冷却等がある。本報では、このうちの接着温度について、時間の経過にともない接着に非常に関係する GLUE LINE 温度（プレス時、接着芯地の樹脂に作用する温度）がどのように変化するかを調べるとともに、温度変化のはく離強さへの影響を検討した。

【方法】 試料として、表布には最も簡単な組織としての平織物 4 種（綿 100% 2 種、毛 100% 2 種）を、接着芯地には不織布芯地（片面タイプ）4 種（「ドットタイプ」2 種、「熱融着タイプ」2 種）を用いた。接着条件は、接着温度をプレス機コテ面で 150℃に、接着時間を 5 sec 間隔で 30 sec まで、バキュームを 5 sec、接着圧力を 0.15, 0.3 kgf/cm² の 2 種とし、スチームは付与しなかった。プレス機コテ面と接着芯地の間の温度、接着芯地と表布の間の温度の測定は直径 0.1mm の熱電対を用いた。はく離強さの測定は、JIS L 1089 衣料用接着布試験方法に従った。

【結果】 1. GL 温度は時間の経過とともに高くなり、同一の接着芯地を用いても表布によって GL 温度が異なる。 2. はく離強さは接着時間の経過とともに大きくなるが、ある時間のところで最大値を示す試料もある。 3. 最大値を示す試料の接着状態を顕微鏡で観察したところ、織物表面の毛羽が比較的長い場合には、プレスして接着したとき樹脂が硬化してしまわないうちに、毛羽がプレス時の圧縮から回復して樹脂の表面から離れるところがみられた。